

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000384	事業の開始年月日	平成24年4月1日	
		指定年月日	平成24年4月1日	
法人名	株式会社コムロード			
事業所名	もえぎケアセンター下倉田			
所在地	(244-0815)			
	横浜市戸塚区下倉田町794-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月21日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の個々に合ったサービス（通い・宿泊・訪問）を柔軟に組み合わせて提供しています。小高い丘の上であり、自然に囲まれた環境の中、日当たりの良いダイニングでゆったりと過ごすことができます。また、季節の行事を取り入れた作品づくりは、みなさんに好評です。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年3月5日	評価機関 評価決定日	平成25年5月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇個々のニーズに柔軟に対応した利用者支援 ・一人ひとりの利用者が地域で生活を継続できるよう、時間外の通いサービスに対応している。独居の利用者に対しては手作りの弁当を届け、買い物、通院、洗濯などの支援をするなど、個々のニーズに柔軟に対応している。 ◇季節の行事を取入れた利用者の作品づくり ・ダイニングでは、職員の書いた下絵に、利用者が協同して桜の貼り絵を作ったり、季節の作品づくりを楽しんでいる。廊下には、利用者手作りの千代紙のおひな様が展示され、ほのぼのとした空間を提供している。 ◇食事を楽しむことの出来る支援 ・職員と利用者が和気あいあいの中で一緒に食事をし、食後にはコーヒータイムを楽しんでいる。職員が毎月交替で、旬の食材を取入れ栄養のバランスを考えた献立を作り、調理も交替で行い、利用者にも好評である。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇家族からの意見・要望を引き出す工夫 ・家族との「連絡ノート」を使い、利用者の事業所での生活を伝えると共に、家族からは意見・要望を汲み取っている。半年ごとに家族から事業所に対し要望書を提出してもらい、サービスの質の向上につなげている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内等目につく場所に掲げ、理念に基づき介護できるよう実践している。	・法人設立来の共通の理念「利用者と一体感ある介護サービスの提供」の実現に向け、毎月の職員ミーティングで話し合っている。職員は利用者を仲間と思い、個々の利用者の思いにそった支援を心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型の「秋祭り」を開催し地域の方との交流を深めている。	・毎年、事業所の秋祭りが行われ、屋台、バザー、ゲームなどに多数の地域の方の参加を得ている。事業所の菜園はボランティアが栽培に協力し、野菜の収穫期には食材として利用されている。近くのお花教室から季節の花が届けられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型の催しや運営推進会議に参加していただくなどをしながら、理解や支援に貢献している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、サービスを向上できるように利用者のご家族等に意見、要望を伺っている。	・利用者、家族、自治会長、ボランティア団体役員、地域ケアプラザ職員のほか、法人代表も参加し、参加者一人ひとりから意見・コメントをもらっている。家族からの要望で、天気の良い日は近隣に散歩に出かけている。	・運営推進会議は現在まで2回開催されていますが、2か月に1回の開催が望まれます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った事は、相談してアドバイスをもらったりしている。	・地域ケアプラザとは講習会に職員が参加する一方、運営推進会議に参加してもらい、連携を深めている。横浜市の高齢者支援課には運営上で判らないことがあれば、アドバイスをもらっている。市主催の連絡会にはグループ4施設交替で参加し、情報交換している。		

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを意識しながら行っている。	・身体拘束排除宣言が玄関に掲示され、職員に対する社長研修が行われている。管理者は職員の「座って、動かないで」といった「言葉の拘束」に対して都度、注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉賭けや行動など常に注意して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが、制度については少しずつ学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族より質問、疑問、不安を伺い、十分に話し合い、説明し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ノート、メール、要望書などで意見を聞き、サービスに反映させている。	・利用者の思いや要望は日常の雑談の中で聞き出すようにしている。 ・家族の意見・要望は運営推進会議、面会時、家族との連絡ノート、6か月毎の「要望書」などから汲み取っている。要望でミキサー食を取入れた利用者もいる。	

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで出た意見や要望は、管理者が会議で社長に伝えている。	・職員の意見・要望は毎日の申し送り、毎月のミーティング、年2回の管理者の面接時に汲み取っている。職員の要望で備品（利用者の足置き、風呂場の砂時計）を購入した事例もある。処遇などに関する要望事項は管理者から社長に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情、生活状況、働く目的などが考慮された上で働くことができ、環境整備も整えてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回、テーマを決めて社長研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアプラザで開催された講習会に参加して交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、本人と面会し、直接要望などを聞き入れている。また、不安がある場合は体験利用ができる機会も設けている。		

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に家族とも面会し、家族からの意見や要望も聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面会して必要とする他のサービスも組み入れ、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間がかかっても行えるよう見守り、またお手伝いをお願いすることで共に過ごし支え合う関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートで本人の状態を理解してもらい、協力を得たい時にはお願いして支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問や老人会へは、本人意思で行っている。	・入居時に家族から利用者のこれまでの生活歴、家族状況など記入した「アセスメント表」を提出してもらうほか、来所時に家族から利用者のこれまでの人間関係などを聞き出している。独居の利用者に対しては買物支援、通院支援を行っている。	

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同のレクリエーションをしたり、利用者同志が仲間として支え合えるよう座席配置なども工夫して支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用廃止後も必要に応じて相談にのっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	半年に一度、利用者のご家族へ要望書の提出を申し出ている。困難な場合は家族から情報を得たりして、スタッフ間で本人本位に検討している。	・利用者の思いや意向は、入居書類の生活歴や日常の会話から把握に努めている。把握が困難な利用者は家族から情報を得たり、本人の動作や表情から把握に努めている。得られた情報は業務日誌、スタッフ間の連絡ノート、ケアカンファレンスを通じ、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーから情報提供や本人、家族からの聞き取りなどで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の他に、一人一人の経過観察記録、さらにケアカンファレンスで現状を把握している。		

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人担当から出された課題はケアカンファレンスで話し合い、家族からの要望もとり入れ介護計画を作成している。	・家族からの要望を確認し、利用者の担当職員から出される課題・援助内容をもとにカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。個人経過記録を基に6か月毎に見直され、状況に変化が見られたときは都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過観察記録に利用者の日々の変化を個別にまとめ、月一回ミーティングを開いて話し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良や家族の事情などに合わせて、柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力で菜園の野菜を収穫したり、お花教室からアレンジメントフラワーが届いたり、地域に支えられ暮らしを楽しむことができる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医へは、看護師が連絡調整し、通院同行では病状の説明を行うなど支援している。	・利用者は全員、従来のかかりつけ医に掛かっており、看護師が各医師と連絡調整している。通院は原則、家族が同行し診察結果を事業所に伝えている。独居の利用者には通院支援している。看護師が毎週事業所を訪問、問診しアドバイスしている。	

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、入浴時等の身体観察を行い、看護職員に伝え相談しながら手当や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院に向け主治医やソーシャルワーカーと話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合について説明している。	・利用開始時に利用者・家族と話し合い、重度化した場合や入院が長期に及ぶ場合は、一旦、登録を廃止してもらう旨、了承してもらっている。骨折入院し、登録を廃止したケースがある。社長による職員向けの看取り研修が計画されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て緊急通報の訓練を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し夜間規定避難訓練を行った。安全に素早く非難できるように取り組んでいる。	・昨年9月、消防署の指導の下、隣接系列グループホームと協同で夜間想定訓練を行い、利用者の避難訓練を行った。自治会の避難訓練には職員が参加している。災害時の水、食料、薬などのリストを作成中で、近々備蓄品を手配する予定である。	・避難訓練は職員だけの限界を踏まえ地域と一緒に訓練を行うなどの取組みが期待されます。

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けについては注意を払い人格を尊厳した対応を心掛けている	・利用者を敬う丁寧な言葉遣いや対応を周知・徹底している。不適切と思われる場面を確認した場合、管理者は直ちに注意、改善を促している。 ・個人情報に関する記録や書類は施錠できる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を自由に表現できるよう、個々に合わせた声掛けをして、自己決定できるようサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって休憩したりレクリエーションをするなど一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の整髪や爪切り、髭剃りをして身だしなみを整えている。定期的な訪問理美容は希望される方に利用してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材をメニューに取り入れ楽しんでいただいている。下膳ができる方には手伝っていただいている。	・職員が旬の食材を取り入れたバランスの良い献立を考えている。 ・季節毎の行事食、伝統食を適宜取り入れ、食事に変化を持たせている。行事・誕生日会の食事や利用者の様子を写真に撮り、年間行事計画ファイルに記録している。 ・職員も同席して話題を提供しながら食事を楽しんでいる。	

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を考え、摂取量、水分量には注意している。食事形状は一人ひとりに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできる方は見守り、できない方は介助をしている。口腔内が清潔であるように気をつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握して、声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。	・食事前や帰宅時などタイミングを見て声かけをしているが、現在利用者全員が自立しており、本人のペースでトイレに行っている。 ・排泄の後は職員がさりげなく確認して、チェック表にて把握、記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は排便に繋がるように水分量や運動などを工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や順番を工夫して、ゆっくりと楽しんでいただいている。	・入浴の順番や同性介助など一人一人の希望に合わせて、ゆっくり楽しめるよう配慮している。 ・入浴を拒む方への声かけを工夫したり、無理強いはせずに時間をあけて誘う・次回にするなど柔軟に対応している。	

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態をスタッフが把握し、一人ひとりに合った休息や安眠環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬表をファイルし、必要時にすぐに確認できるようになっている。服薬支援はもちろん症状の観察もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いができる方にはお願いし、利用者同志が楽しむことが出来るレクリエーションなどを工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事を計画して外出の機会を作っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人内のグループホームの畑のいも掘り参加・初詣・桜の花見など年間行事を計画している。隣接のグループホームが企画した1泊旅行に参加した方がいる。 ・希望があれば散歩や買い物など個別の外出も対応できる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族がしている。通所時にお金を所持されている方はいるが、その方は自己管理ができている。		

もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能型事業所）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている人には使用方法をお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の温度、換気などは常に配慮している。利用者が製作した作品などで季節感あるレイアウトをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・デイルームは明るく清潔である。床暖房や加湿器で、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。構造上必要な柱の周りに設置したベンチが良いアクセントになっている。 ・利用者の作品が季節感を演出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにゆったり座ったり、気の合った利用者同士で過ごせるよう席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの時はご本人の希望を伺い、心地よく過ごせるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・泊りの居室は、ベッドを置いた洋室と和室、アコーディオンカーテンで間仕切る部屋を用意し、利用者の希望や身体の状態に合わせ、対応している。 ・着替えのほか、好みのものの持ち込みを自由に行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手摺の設置も多く、安全にできるだけ自立して移動ができるよう配慮している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター下倉田（小規模多機能）

作成日 平成25年5月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域との避難訓練を実施できていない	地域の方と協力して避難訓練を行う	日程調整をして避難訓練を行う	1年
2					
3					
4					
5					